

平成 26 年 6 月 30 日

日本行動医学会
専門研究グループ (SIG) 活動報告書

| | | | | | |
|------------------------------|---|----|----------|----|-----|
| グループ名 | 青少年のための認知行動療法研究グループ | | | | |
| 代表者氏名 | 佐藤 寛 | 所属 | 関西大学社会学部 | 職名 | 准教授 |
| 連絡先 | Tel : 06-6368-1832 Fax : 06-6368-1832 e-mail : hsato@kansai-u.ac.jp | | | | |
| 1 年間の活動内容 (具体的な活動内容とその成果) | <p><平成 25 年度活動報告 (平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日)></p> <p>活動の概要</p> <p>今年度は SIG 設立初年度であり, ①研究者ネットワークの構築, ②海外の専門書の翻訳出版, ③国内の事例研究に関するメタアナリシス, の 3 点に焦点を当てた活動を実施した。</p> <p>具体的な活動</p> <p>①研究者ネットワークの構築</p> <p>公益社団法人日本心理学会および同志社大学心理臨床センターとの共催で, 平成 25 年 9 月 22 日に同志社大学において特別招待ワークショップ「思春期のパニック障害: アセスメントから治療まで」を開催した。このワークショップに参加した研究者とのネットワーク構築を進め, 次年度以降の研究計画に結びつけることができた。</p> <p>②海外の専門書の翻訳出版</p> <p>海外における主要な専門書である, “Principles & Applications of Assessment in Counseling” の訳出作業に着手した。この活動は次年度以降も継続する</p> <p>③国内の事例研究に関するメタアナリシス</p> <p>国内で実施された青少年を対象とする認知行動療法の一事例研究を統合し, その有効性に関するエビデンスを得るメタアナリシスに着手している。関連する雑誌 (教育心理学研究, 行動療法研究, 行動分析学研究, 特殊教育学研究, 発達障害研究) に掲載された論文の収集を進めており, 次年度以降に分析と成果発表を行う予定である。</p> <p>活動成果の報告</p> <p>①著書・訳書</p> <p>石川信一 (2013). 子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法: 理論と実践 金子書房.</p> <p>Clark D. A., & Beck A. T. (著) 坂野雄二 (監訳) 石川信一・岡島 義・金井嘉宏・笹川智子 (訳) (2013). 不安に悩まないためのワークブック—認知行動療法による解決法— 金剛出版.</p> <p>O'Donohue, W.T., et al. (編) 坂野雄二・岡島 義 (監訳) 石川信一・金井嘉宏・松岡紘史 (訳) (2013). 認知行動療法という革命: 創始者が語る歴史 日本評論社.</p> | | | | |

| | |
|--|--|
| | <p>ローリー・A・グレコ, スティーブン・C・ヘイズ (編著) 武藤 崇 (監修), 伊藤義徳 (監訳), 石川信一 (監訳), 三田村 仰 (監訳) (2013). 子どもと青少年のためのマインドフルネス & アクセプトランス 明石書店.</p> <p>②学術論文</p> <p>Ishikawa, S., Shimotsu, S., Ono, T., Sasagawa, S., Kondo-Ikemura, K., Sakano, Y., & Spence, S. H. (2014). A parental report of children's anxiety symptoms in Japan. <i>Child Psychiatry & Human Development</i>, 45, 306-317.</p> <p>佐藤 寛・渡邊裕亮・佐藤美幸 (2014). 日本語ウェブサイト上の摂食障害の治療法に関する医療情報の質の検証 関西大学心理学研究, 5, 11-16.</p> <p>石川信一・菊田和代・三田村仰 2013 児童の不安障害に対する親子認知行動療法の効果 心理臨床学研究, 31, 364-375.</p> <p>Essau, C. A., Ishikawa, S., Sasagawa, S., Otsui, K., Sato, H., Okajima, I., Georgiou, G. A., O'Callaghan, J., & Bray, D. (2013). Psychopathological symptoms in two generations of the same family: A cross-cultural comparison. <i>Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology</i>, 48, 2017-2026.</p> <p>Sato, S., Ishikawa, S., Togasaki, Y., Ogata A., & Sato, Y. (2013). Long-term effects of a universal prevention program for depression in children: A 3-year follow-up study. <i>Child and Adolescent Mental Health</i>, 18, 103-108.</p> |
| <p>助成金の使途 (助成金を受けなかった場合は0円と記載。内訳は原則として、会場費・通信費・謝金等の費目に従って記載して下さい。)</p> | <p><u>助成額</u> 100 千円</p> <p>内訳 (費目ごとに員数・単価・金額を記すこと)</p> <p>研究打ち合わせ費用 (旅費 38,230 円, 昼食代 2,894 円) 計 41,124 円</p> <p>研究図書資料費 25,744 円</p> <p>消耗品費 33,132 円</p> <p>合計 100,000 円</p> |